



カヌーと屋形船の意義

カヌーと屋形船について
シャングルスポット伊勢としての
意味合いをご説明します。

Q1: なぜ宮川でカヌーなののでしょうか?

【宮川をカヌーで体験する3つの意義】

意義①カヌーなら宮川をゆったりと味わえるから

宮川(みやがわ)は,三重県南部を流れる一級河川です。延長91kmは三重県のみを流れる河川としては最も長く,奈良県との県境の大台ヶ原山に源を発します。

上流域は近畿の秘境とも日本三大溪谷の一つとも謳われる大杉谷です。国土交通省の一級河川水質調査(BODを基準としている)で,平成3、12、14、15、18、19年に全国1位となっており,清流で知られています。

歴史を遡るように,水辺の自然をカヌーでゆったりと味わうことで,日常の喧騒から離れる体験が出来ます。その後の参拝は,きっと一味も二味も違ったものとなると考えております。

意義②往時のお伊勢参りにつきものの川を体験できるから

宮川には明治になるまで、橋がありませんでした。お伊勢さんをめざす旅人たちは皆、乗ってきた馬を返して、渡し舟へと乗り込んだのです。当時、宮川には三ヶ所の渡し場があったということです。

- 小俣の下の渡し（桜の渡し）：京・東国から参宮街道を通る者が利用した
- 川端の上の渡し（柳の渡し）：大和・紀州から初瀬街道を通る者が利用した
- 磯の渡し：地元の人を利用した

渡しは、昼夜の区別なく運行され、無賃であったといわれています。また、宮川を渡ると神域に入るため、諸国からの参詣人は身を清めたという、聖なる川・宮川。はるか昔から、多くの旅人たちの心を和ませていた宮川は、今でも同じように私たちの心を和ませ、静かに流れ続けています。清流宮川でその気分をカヌーで味わってみるのはいかがでしょうか？

意義③伊勢神宮との関わりが深い宮川だから

伊勢神宮を訪れた人々が禊（みそぎ）をしてケガレを祓（はらう）う習わしであった宮川。名前の由来は「豊受宮（とようけのみや）（伊勢神宮の外宮）の禊川（みそぎがわ）」が縮まって「宮川」と呼ばれるようになったといわれています。伊勢神宮には、太陽を神格化した天照大御神を祀る皇大神宮と、衣食住の守り神である豊受大神宮の2つの正宮が存在し、一般に皇大神宮を内宮（ないくう）、豊受大神宮を外宮（げくう）と呼ばれています。

宮川は豊受大神宮（伊勢神宮外宮）の禊川です。

神宮式年遷宮では、外宮領の御木曳きの出発地点です。

また、お白石持行事に使用する石は、この宮川の河原から採集されるなど、伊勢神宮との関わりが深いです。

Q4 宮川にまつわるお土産などありますか？

A：伊勢市のお土産物と言えば、赤福餅を始め、特にお餅の名物がたくさんあります。

今を去る二百余年前、安永四年(1775年)参宮街道宮川のほとりで茶店を設け餅を商ったのが始まりのお餅があります。

当時駕籠や三宝荒神(馬上に三つの鞍を置いたもの)で参宮する人達がこの店に憩われて、ここから馬を返し参宮されたため何時しか、へんば(返馬)餅と名づけられ今日に及びました。

現在はへんば餅としてその名残りを残しております。柔らかい餡入り餅に少し焼き色をつけた素朴なお餅です。

Q5：カヌーはちょっと無理かと思う
メンバーがいるのですが…。

A：カヌーを楽しみたい方とそうでない方にどちらにもご満足頂けるように、カヌープランの他に屋形船プランをご用意しております。

屋形船プランは、カヌープランと時間的にも料金的にもほぼ同じ設定です。

同じグループやファミリーで、カヌー組と屋形船組にわかれても、終了して宿泊施設に帰る時間がほぼ同じとなります。

Q6：グループで参加したいのですが、
制限人数などありますか？

- カヌーは、一度に20名様までの体験OKです。
20名様以上の場合交替でカヌー体験出来ます。
- 屋形船は、48名様までです。